様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　23 年　4 月　15 日現在

機関番号：12606
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2009～2012
課題番号：20320031
研究課題名（和文）東京美術学校西洋画科の絵画技法材料の解明-自画像群の自然科学的調査を通して-

研究課題名（英文）Research on the Materials and Techniques Used in the Self-portraits Done as Graduation Works of Oil Painting in Tokyo Bijutsu Gakko

研究代表者
佐藤　一郎（SATO ICHIRO）
東京芸術大学･美術学部･教授
研究者番号：20320031

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：芸術学･芸術史･芸術一般
キーワード：(1) 東京美術学校西洋画科（2）自画像（3）自然科学的調査（4）明治期（5）絵画技法材料（6）高精細画像記録

１．研究計画の概要

本プロジェクトは、明治後期の東京美術学校西洋画科の卒業制作品である自画像作品群に焦点を絞り、本プロジェクトがこれまで築き上げてきた自然科学的手法にもとづく、さらなる調査研究の実施である。そこから得られるデータによって、洋画導入の礎ともなった東京美術学校の西洋画教育、つまり明治後期油画制作における絵画技術、絵画材料の精細な解明を目的とした研究である。

２．研究の進捗状況

本研究開始当初、明治期自画像作品全てを網羅する調査は不可能と考えていた。しかしながら、本研究のために購入した超高精細デジタルカメラや赤外線撮影用に揃えた機材等の性能が想定以上に操作性に優れ、さらにX 線撮影をフイルムからデジタル撮影に変更したことによって、本プロジェクトはきわめて能率的な調査を実施することが可能となった。そのため、当初予定した調査点数をはるかに上回るペースで消化することができ、3 年間 32ー40 点の予定が、最終年度に予定される 6 点の詳細な分析調査を残して、自然科学的手法による光学調査分野においては明治期の自画像作品群すべてである 143 点を完了させることができた。本プロジェクト前に調査された点数を加えるならば、本学大学美術館が所蔵する明治期自画像作品すべての光学調査は完了することとなる。その合計点数は 196 点である。

上述の自然科学的手法による調査とは、自画像の超高精細デジタル撮影、赤外線撮影、紫外線蛍光撮影、X 線透過撮影、画布の地塗り層および絵具層の顔料分析、用いられた技法の目視観察等である。さらに、予定した自画像の修復点数では、ほぼ予定通り 9 点の修復が完了し､23 年度はさらに 4 点の修復が予定されており、当初の予定を上回る。

３．現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

本プロジェクトによって明治期東京美術学校自画像作品すべての自然科学的調査は予定を上回るペースで進行している。残された最終年度はそれらのまとめの年度となる。

本プロジェクトの最終年度である 23 年度は 4 年間で得たデータを精細に分析し、その結果にもとづく東京美術学校西洋画科で指導された絵画技術、絵画材料のシステム化された絵画教育は明らかにされるであろう。

４．今後の研究の推進方策

東京芸術大学美術館が所蔵する自画像作品群は、卒業時の提出作品として明治期の東京美術学校時代から現在の東京芸術大学に至るまで、今なお滞ること少なく連綿として収蔵され続け５０００点にもおよぶ。その間、１００年の東京美術学校と東京芸術大学で指導された絵画技術、絵画材料は、その指導の微妙な変化と変遷を如実にこれらの自画像にすり込まれ、確かに反映されている。本プロジェクトで明らかにされた内容は、自画像の絵画技術、絵画材料研究にとどまらず、明治期に描かれた油画作品への貴重な基礎データとして新たな基準を与えることとなるであろうし、この成果は最終年度の目標である集成した結果を、出版によって広く社会へ公開する予定である。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔図書〕（計１件）
佐藤一郎・木島隆康・大西博・桐野文良・増田久美・土屋裕子・作間美智子「東京美術学校西洋画科卒業制作品・自画像の技法材料、保存修復に関する基礎的研究Ⅶ」東京芸術大学　美術学部　紀要第48号　1-40（2010年）